

各地に回部王あるは、皆此の阿都喇汗の後裔なり。

清朝に至り、天山北路平定後、陝甘二省の回々教徒(漢回)を北路に移住せしめ、又天山南路各城の回々教徒(纏頭)をも、伊犁に移住せしめたり。是より回々教は新疆全部に擴まりて、實に抜くべからざる根柢を成し、今や回教徒の數は、殆んど百六十万人に達し、全人口の大部分を占む。盛なりと謂ふべし。

清國の回々教徒は、新疆省を首とし、自餘の各省、何れも回教徒あらざる所なし、今其の各省の概況を摘記すれば左の如し。

陝西、甘肅二省は、早く盛んに行はれ、現今は支那本部に於ける回教の中心點なりとす。廣西省も、回教徒、苗族と雜居し、湖南省は、人口の十分の一は回教徒にて、殊に常德府は、市民の三分の一、即ち五萬以上を占め、勢力甚だ盛なりと。長沙にも二箇の回教寺あり。湖北省は、斯教甚だ盛にして、武昌附近のみすら六十の回教寺を有す。其他大抵十五里毎に、一寺ありと云ふに至ては、其の概略を推知するに足る。雲南省も、古來甚だ盛んに、江蘇省亦雲南に次ぐの流行地にして、南京のみにて、四十八箇所の清真寺(回教の教會堂を云ふ)あり。又蘇州には二箇寺、上海には只一箇寺、蘇湖